

あむーる

梅 謙次郎先生

～松江北高出身の偉大な卒業生

No.4

島根県立松江北高等学校
第3学年 八幡英語通信
2016年5月6日発行
第4号

「この国で最も偉大な法学者の一人、民法典の起草者・梅 謙次郎(うめけんじろう)は松江北高の出身です」と東大法学部に進学した卒業生に教えてもらいました。わが国「民法の父」そして「空前絶後の立法家」「先天的な法律家」といわれる梅 謙次郎博士は万延元年(1860)、出雲松平侯の侍医の次男として松江市・灘町に生まれます。幼少時より俊秀の誉れ高かったが、明治維新後、士族の廃止により一家は零落。上京後は大道の夜店で、足袋や手拭いなどを売りながら、カンテラの灯りで書見に励み刻苦精勤し、東京外国語学校仏語科(現東京外国語大学)を最優等で卒業。その後、司法省法学校も首席で卒業しました。卒業後は、司法省御用掛・文部省御用掛を経て東京法学校(官立)教員に就任。フランス留学、ドイツ留学を経て、帝国大学法科大学教授に就任。その後、今の法政大学の総理(=総長)に就任し、以来、51歳で急逝するまでの20年余、多忙の中を割いて法政大学のために働き続け、その間、給与等は一切受け取らなかったといえます。あのJAL再建の陣頭指揮に、無給で乗り出した稲盛和夫さんを彷彿させますね。地歴公民科の引野先生から、松江市・灘町に彼の生誕地の「記念碑」があることを教えてもらったことがあります。今は別の人が住んでおられますが、ひっそりと石碑が建っています(写真右)。



先輩は語る

<4>

九州大学 理学部化学科 3年 前田迪子

皆さんこんにちは、九州大学理学部化学科3年の前田迪子(まえだみちこ)です。北高では三年間と更に補習科で八幡先生にはずっとお世話になりました。本日は、大学紹介をしてほしいと他ならぬ八幡先生からの依頼を受けましたので、大学の紹介をいたします。まずは私の現在学んでいることを紹介したいと思います。どこの大学でも同じですが、入学して一年から一年半は教養と言われる科目の履修があります。九大ではこの教養を一年したのち、各々の専攻科目を履修していく形になります。現在私は化学科の3年生ですので、専攻科目の化学をメインに勉強を始めて一年が経ったところです。化学科だから当然だろうと思われる方も多いかもかもしれませんが、週8コマ(90分×8)は実験をしています(余談ですが、この紹介文を書いている今日は爪にアセトン(除光液の主成分)がかかって爪の油分がなくなりました…。高校では実験をほとんどしませんので、最初は操作もおっかなびっくりですが、だん

だんと上達しますのでもし不器用だから実験のない学部に行こうかと考えている人がいたら是非とも考え直してみてくださいね(笑)。実験においては、操作がうまくできる云々よりもその後のレポートがきちんと書けるかが試されます。つまりは国語の力と自分で考察する力です。理系だからといって国語の手を抜くと痛い目にあいますので、文章を書く力をきちんと養っておくべきだと痛感しています…。さらに実験レポートは場合によっては手書きの場合がありますので、字は丁寧に書けるようにきちんと訓練しておきましょう。また3年生になって始まった有機実験では手順を書いた実験の手引書が英語になりました。英語力もきちんと養っていくべきです。しっかり北高で鍛えてもらってください。今はしんどくてもきっと役に立ちます。

また、化学科では教員免許を取ることができます。しかし、化学科で実験をこなし、週1回はレポートを出し、その間に座学も入り…と忙しい日々を送っているとなかなか単位の取得が大変だと言うことに気が付きました。私自身は、工学部か理学部か進学先を迷って理学部に決めましたが決め手は教員免許が取れるかどうかでした。理学部では中学・高校の理科免許が取れますが、正直私の時間割と生活ペースにおいては、高校までの免許を取るのが精いっぱいです。個人的には、中学の教員免許が是が非でもほしい方は理学部ではなく旧帝大と言われる大学以外の教育学部に行くことをおすすめします。(※旧帝大の教育学部は教員養成ではなく、教育そのものについて考える学部であるためです)

次に私が学生生活を二年送って気が付いたことを述べたいと思います。私は大学に通い始めた当初、自分と同じような学力、そして価値観を持った人がかなり多いことに気が付きました。そういう人たちとは真面目で深い話もしやすいです。高校でも同じことを思ったのですが、それよりもさらに強く、大学では実感しました。似た価値観を持った友人が多くできた今、私は楽しい学生生活を送ることができています。そのため、皆さんには変に進学先を妥協しないでほしいと思います。ただしこれは我を張って先生のおっしゃることを聞くなと言う意味ではありません。先生方、親御さん、そして自分の学力とよく相談した上で自分に合ったレベルの大学に行ってほしいということです。

最後に、この時期の三年生に言うには少し早いかもしれませんが、浪人(補習科)に関しても一言述べようと思います。受験は一年に一度ですが、二度と受けられないものではありません。しかし最初から「浪人でいいや」と思って受験に臨まないでほしいと思います。それは絶対に自分への妥協になります。妥協したら確実にその一連の受験は失敗に終わります。私の補習科での一年はとても充実していましたし、良い友人たちに恵まれましたが、だからと言ってもう一度繰り返したい一年ではありません。安易な気持ちで浪人に踏み切ると、あまり効果は出ないのではないかと思います。…とは言え、浪人はそんなに悪いものではありません。目的をもって励めば、確実に充実した一年になると思いますのであんまり嫌がらないでください。

それでは長くなりましたが、以上で終わりとさせていただきます。このような文章を書く機会を下さった八幡先生、本当にありがとうございました。この場を借りてお礼を申し上げます。そして三年生の皆さん、どうぞしっかりと受験勉強に励んでください。福岡の地から応援しております。♥♥♥



▲前田さんは、理数科出身。現役時代は弓道部に所属し、全国大会で団体優勝した主力メンバーです。まさに北高が標榜する「文武両道」を体現した卒業生です。「自分と同じ価値観:学力の人が周りにたくさん存在する環境に身を置いていることの喜び」という箇所に感動しました。全くその通りだと思います。そのためにも頑張らないといけません。

★八幡のサイト「チーム八ちゃん」はコチラ → <https://teamhacchan.wordpress.com/>